

2022.12.04. あなたが落胆すると、イエスが起こしてくださる

第二ペテロ 1章1節

JD ファラグ牧師

主よ、今朝、どうか私たちに御力を与えてくださいますように。私たちの中には、いや、もしかしたら全員が今朝、何かを経験するかもしれません。主よ、私たちの御力になっていただけませんか？ 私たちを背負っていただけませんか？ 主よ、私たちを慰め、導き、愛してくださいますように。御言葉に感謝します。主よ、JD牧師を遣わして下さり感謝します。主よ、これからも彼と彼の家族を祝福し、あなたの御力で立たせ続けて下さいますよう。共に過ごすこの時間を祝福ください。力強い唯一の、イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。おはようございます。ようこそ。ご着席ください。ありがとうございます。オンラインで参加の方も歓迎します。大変嬉しいです。さっところにおられる方にお知らせします。今週の火曜日、午後7時、この礼拝堂で祈り会を行います。ぜひ皆さん参加されるのをお勧めします。今日から、私たちの聖書の旅は新しい書から始まります。先週「第一ペテロの手紙」を学び終わりました。で、次の書は、「第二ペテロの手紙」です。そう、早や過ぎます？

さて、今日の箇所は、「第二ペテロの手紙」1章から始めて、「1節まで」全～部を読み進めます。すぐその理由が分かると思います。では、可能な方はご起立ください。無理な方は、着席のままで結構です。私が読みますので、ついてきて下さい。すぐに理由が分かると言ったのは、本当です。使徒ペテロは今、聖霊によって、第二の手紙をこう書いてます。1節、

—II ペテロ 1:1—

イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって、私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。

祈りましょう。よろしければ一緒をお願いします。お～主よ、本当に、本当に、本当に、再度、ありがとうございます。私たちの前にある御言葉は、ほんの一部です。それはあたかも、2, 3匹の魚と2, 3個のパンかもしれません。しかし、あなただけが御出来になる通りあなたはその小さなものを、大きく増やしてください。私たちを、人生や週に適用できるよう余りがでるほど十分な量のいのちのパンで養ってくださいように。主よ、私たちは飢え渴いています。私たちの飢え渴きを満たせるのは、あなただけであることも、私たちは知っています。そのために、主よ、私たちはここにいます。どうか、そうなさってくださいませんか？ 私たちは心底、心からあなたを求めます。主よ、感謝します。イエスの御名において。アーメン、アーメン ご着席ください。ありがとうございます。

さて、今日お話ししたいのは、「私たちが落ち込んでいる時、どうやって、いつもイエスは起こして下さるのか」です。イスラエルの甘美な詩人、ダビデが大好きです。彼は、この美しく壮大な約束の御言葉を綴っています。

「私の頭（かしら）を上げる方」（詩篇 3:3）

主は、私を持ち上げて下さるお方。私が落ち込んでいるとき、いつもイエスが立ち上がらせて下さいます。さて、なぜこのタイトルにしたかという、ペテロは、聖霊によって第二の手紙を書き始め、最初の節に、言い方はマズいですが、素晴らしい、適切な導入の言葉が語られているからです。理解すべきは、当時、製本された本はなく、巻物の手紙でした。ですから、文頭には必ず、誰が書いているのか、誰宛てなのかを記します。挨拶が必ずあって、そうでないと、手紙の一番下まで見ないと、誰からの手紙なのか分かりません。最後まで読み、匿名だったりすると、「あ～、～、マジ？」となります。すると、あな

たはその手紙をゴミ箱に捨ててしまいます。これが導入なのです。これは公同書簡と呼ばれていて、特定のクリスチャングループや教会ではなく、一般的なクリスチャン宛てに書かれているからです。ですから、この素晴らしい導入箇所は、それにふさわしい御言葉です。この最初の節だけで、とても多くの事が詰まっています。だからこそ、急ぎたくありませんでした。この最初の一節だけで、こんにちの私たち、特に本当に傷ついて、本当に落ち込んで、本当に苦労している人への御言葉がここにあると思うのです。あなたにとって励みとなり、主だけが御出来になる通り、あなたの頭を持ち上げ、弱った膝を力づけて下さることを願います。さて、本題に入る前に、これから見るものの前置きこの最初の部分だけでなく、手紙全体について説明しないと大失態です。ちなみに、この手紙は短い手紙です。僅か3章しかありません。これは、第一の手紙の約一年後に書かれたと考えられています。さて、なぜそれが重要なのでしょうか？ それは、この手紙の執筆が、紀元64年頃と考えられます。なぜ、それを知る必要があるのでしょうか？ なぜなら、これを書いた時、ペテロは、30年以上を重ねていたと考えられています。ところで、今から見ていきますが、この手紙の中でペテロは、自分の人生が終わろうとしていることを知っていました。これが彼の最後の手紙であり、別れの言葉でした。この世を出発する前に、ペテロは聖霊に導かれ、この励ましの手紙を書こうとしました。この手紙は非常に預言的なものですよ。これから分かりますが。約一年後の二通目の手紙を書くまでの間、色んなことがありました。これが、ペテロの第一の手紙と、第二の手紙に、顕著な違いが見られる理由です。ペテロの第一の手紙は、おもに、クリスチャンを励ますためのものです。そして一年後の、第二の手紙は、クリスチャンに警告するためのものです。その1年の間に何があったのでしょうか？ 偽教師が入ってきたのです。まるでこれでもかというように。いまだカエサル・ネロが皇帝です。クリスチャンを動物の死骸の中に入れ、生きたまま、獣に食い殺させていました。皇帝ネロは、クリスチャンをタールに浸し、「世の光だ！」と嘲笑しながら、生きたまま、焼き殺していました。彼らは、そのすべてを経験していました。そして、さらに悪いことに、傷に侮辱を加えるように、偽教師たちが現れます。ですからペテロは、靈感によってこの第二の手紙を書き、この手紙は、おそらく聖書の中で最も力強く、預言的な書物の一つです。そのため、「第二ペテロの手紙」は、激しい攻撃下にあり非常に短い手紙でした。「第二ペテロの手紙」すべてが、疑問視されているのをご存知ですか？ ペテロが実際に書いたということさえ。その日付、信憑性、聖書正典に含めることの賛否。ええ当然、攻撃され、疑問視されるでしょう。この手紙に書かれている内容、加えてあえて言うと、書かれている「預言」の故に。待ちきれません。この教えをとっても楽しみにしていました。どの書にも言ってますけど、何でも構いません。さて、この書に入る前に理解せねばならないことが、もういくつかあります。ペテロは、「シモン」という名を使っています。1節にいきなり「シモン・ペテロ」と書いてあるのに気づきましたか？ それは彼の出生時の名前です。ペテロは出生時の名ではありません。彼がいつ、どのようにしてペテロという名前を得たか知っていますか？ それは、カイザリア・ピリピで、イエスがこう仰った時です。

『わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。』(マタイ 16:18)

ペテロ/ペトロスは、岩という意味です。そこで、イエスが彼にペテロという名を与えられました。ここで、彼は再び、シモン・ペテロとして自己紹介します。なぜでしょう？ お～、彼の謙虚さを強調するためです。それをこれから見ていきます。そして、その後、これが1節だけ学ぶ理由です。

次に、自分が使徒であると言う前に、しもべ(奴隷)だと書いています。私なら全くそんなこと言いません。私ならこう自己紹介します。J.D.牧師、主イエス・キリストに召された者。ペテロはそんなことはしませ

ん。使徒だと言う前に、しもべ(奴隷)だと言います。彼は、主イエス・キリストに召された使徒です。しかしペテロは、使徒を、しもべ(奴隷)であることほど重要とは考えていません。これから見ていきましょう。もう1つ。彼の書く、「神であり救い主」という言葉。皆さん、その節を読んでいるとき、気づきましたか？ 彼はただ、救い主イエス・キリストと言っているのではなく、彼はまず言います。

「神であり救い主であるイエス・キリスト」なぜでしょう？ なぜなら、イエスが、神である重要性を強調しているからです。何よりもまず、イエスは神です。イエスは、まず神であり、そして救い主です。OK。それを前置きとして、そうすることで、神の御言葉の「何」の背後にある「理由」と私が呼ぶものを、よりよく理解できると思います。つまり、私たちは御言葉が語ることを理解しますが、御言葉がなぜそう語るのかを理解しない傾向があるからです。皆さん、ご理解いただけただけでしょうか。もう一度は言えませんかよ。では、このように言ってみましょう。これが神の御言葉が語る事。これは、しもべであり、使徒であるシモン・ペテロが、靈感を受けて書いたもので、彼が書いたもので、ではなぜ、ペテロはこのように書いたのでしょうか？ なぜ、彼はこれを書くよう導かれたのか？ 答えは、落胆しているクリスチャンを励ますためです。もう一度言わせてください。落胆しているクリスチャンを励ますためです。彼らは落胆していたと思いますか？ 落胆が絶望に変わっています。ペテロは、彼らを励ましたいと思いつつ、同時に、彼らを愛しているからこそ、この警告も同時に書いています。ここにもう一つの理由ですけど、全ての人の中で、このような手紙を書くことが出来るのは、ペテロではないでしょうか？

つまり、より良い言い方じゃありませんが、彼にはこの手紙を書く権利がありました。言葉遊びみたいなのは分かっています。なぜなら？ ペテロがそこにいたからです。彼は、神の化身と共に歩んだのです。彼は、神の御子と個人的な交わりがありました。ところで神は、このシモン・ペテロに、長年にわたって働かれました。1節の最初の部分でそれを見ていきます。なぜなら、彼は約30年経って、ちょっと尋ねますが、手は挙げなくてもいいですよ。30年以上、主と共に歩んでいる人は何人おられますか？ 考えてみてください。そうでしょ？ ところで来年の1月、まだ地上にいたらと前置きしますが、私は41歳になります。歳のわりにはいけてるでしょ？ 私の霊的な誕生日です。これは私の話で、拘りなんです。ペテロは、主にあって年を重ねています。彼はキリストにおいて、より成熟しています。恵みによって成長したのです。30年前だった彼とは別人です。それが今日、私たちの前の節から飛び出してきました。1節の最初の部分：「失敗は良いことになり得る」ペテロは、それを語る事ができる人です。何度ペテロが失敗し、くじけ、臆病になり、主を否定したかを考えてみてください。祈っているはずが、眠っていました。地上で肉体を持った神イエスの3年間の公務の間ずっと共にいました。福音書の中で最も多く、他のすべての弟子を合わせた数よりも多く書かれている弟子は誰でしょう？ ペテロです。なぜか？ いつもペテロは話していたからです。彼はいつも質問に答えます。時に、質問をしなくてもペテロは答えます。彼はそういうタイプです。静かな沈黙が続き、静か過ぎると、なんかこう、嫌で、

「これって嫌だ。何か言ってみよう。」そして彼は何かをぶちまける。イエスがペテロに仰らねばなりません。「ペテロよ、落ち着きなさい。」

私は、変貌の山でのことを考えます。この後、この1章で参照して学びますよ。イエスが変貌されたのを覚えていますか？ ペテロはそこにいましたね。モーセ、エリヤもいて、イエスが栄光の輝きを放っておられます。(マタイ 17:1~3 参照)

ペテロは.... (驚愕して、がん見) 実際、本文には詳細があります。

「ペテロは何を口にすればいいかわからなかった。するとペテロは言った。」—(笑)—

本当ですよ、聖書を見てください。彼は、「ここで何かを言わなきゃ！！」誰かが何かを言わねばならない。「OK。」(ペテロ挙手) 彼は何と言ったのでしょうか？

「私たちがここにいることは素晴らしいことです。」(マタイ 17:4)

それだけですか、ペテロ？ そして、こんなことも言います。

「イエス様、幕屋を三つ造りましょう。一つをエリヤのために、一つをモーセのため、一つをあなたのためにです。」(マタイ 17:4)

「ペテロ、箴言(17:28)にあるように、愚か者でも黙っていれば、知恵のある者と思われ、話し始めると、すべてが露わになる。」

「ペテロ、それならいっそのこと.....最善は、何も言わないことです。」

しかし、ペテロは違います。それは、彼の最大の長所でありましたが、同時に最大の短所でもありました。先週、「第一ペテロの手紙」の終わりで、このことについて話しましたね。ペテロは、とても勇気のある人でした。それは、彼の最も得意とする分野でしたが、同時に、失敗する分野でもありました。

これはパウロが、コリント人(I 10:12)に、「ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。」と書いているのと同じです。なぜなら、私たちは自分が弱いと分かっている部分を補強し、自分が強い、コントロールできていると思う部分を蔑ろにします。つまり、ペテロが最も強い分野は、実は、主を否定するという最も失敗した分野でもありました。イエスが逮捕されたとき、彼はローマ軍全体を相手にする勇気がありました。しかし、彼はイエスについて尋ねられた時、イエスとの関係を認める勇気がなく、三度イエスを否定したのです。さて、なぜ私はここで、こんなに時間をかけるのか？ なぜなら、私たちが、落ち込んだままにいる理由の筆頭は何かと聞かれるなら、失敗です。私たちのクリスチャン生活において、失敗が最終決定権ではありません。私たちはペテロが最終的にどうなったかを知っています。イエスを三度否定したペテロを、イエスが三度回復させられました。失敗は良いことになり得ます。質問させてください。一緒によく考えてほしいのです。あなたは、成功から学ぶのと、失敗から学ぶのとどちらが多いですか？ 修辭的質問かもしれませんがね。私たちの失敗が教訓ではないでしょうか。これが、ペテロが、シモン・ペテロの名を使う、「何」の背後にある「理由」だと、私は考えます。なぜなら、彼がシモンと言うとき、まるで自分がどこから来たのかを忘れていないかのようです。彼は、30年前の、シモンだった時、神がどれだけ自分を導いて下さったかを忘れていません。今や、もうあの頃の彼ではありません。彼は数え切れないほど失敗し、くじけ、挫折しました。しかし、何も失敗などありません。その失敗が成功のきっかけとなり、成功する失敗です。時に、皆さん殆ど、成功という言葉は使いたくないのですが、世が言葉をハイジャックするのが嫌です。中東出身の私が、ハイジャックという言葉を使うべきではないのですが、よりよい言葉がないので、世が言葉を盗んで、汚すのが大嫌いです。彼らは「成功」という言葉でそれをやりました。もっといい言葉がないので、それを使います。クリスチャン生活における成功は、クリスチャン生活における失敗からのみ、もたらされます。ペテロは、それを証することがきる人です。

「お～、あなたは落胆してるのですか。失敗し、挫折し、台無しにし、あなたはすっかり落ち込んでいます？」ペテロは、今日の皆さんに、聖霊によって言うでしょう。「あなたの気持ちがよくわかります。失敗したと思っているの？」とんでもない、私の失敗の方がもっと大きいです。世の救い主と、目と目が合ったんです。私は、本当に打ちのめされました。(ルカ 22:61 参照)

あなたの失敗を否定はしませんが、私の失敗と比べれば、取るに足りません。そして、神が私のためにし

て下さった事を見てください。神が、私に何をして下さったかを見てください。」

失敗と敗北、シモンの時代。早合点は禁物です。その代わり、ペテロがしたように、失敗を受け入れることをお勧めします。良いことであるかもしれないからです。砕かれる事には何かがあります。なぜなら、祝福されるには、先に砕かれる必要があるからです。聖書のどこにも、祝福が砕かれる事に先だち、成功が失敗に先だつ箇所はありません。いいえ、その逆です。成功の前に失敗があります。聖書全体を通して、祝福の前に、必ず砕かれる事があります。ヤコブのことを考えます。ヤコブは砕かれ、失敗した看板っ子です。彼は、私は先走っていますが、自分自身の力を頼り、一晚中神と格闘し、主が自分を祝福下さるよう要求します。主は、「あなたを祝福したいですが、あなたを砕かない限り、祝福することはできません。まず、あなたを砕かねばなりません。」

祝福の前には、必ず砕かれることが先行します。成功の前には必ず失敗があります。失敗は、良い事となり得ます。

2 つ目、1 節の後半です。「肩書は危険」成功が危険であるように すべてがうまくいっているという誤った安心感を私たちに与えるからです。すべてがうまく行き、やる事がすべて祝福され、繁栄する。それは、危険です。ですから肩書も同じです。そのため、ペテロはこのしもべ(奴隷)という肩書きを非常に注意深く強調しています。これについては以前にもお話しましたが、さっと、この言葉の意味するところを簡単に説明します。ギリシャ語で、“デュロス(dulos)”です。当時ユダヤ人が、借金のため奴隷となった場合、返済として 6 年間働くことになっていました。でも 7 年目には、借金から解放されて奴隷は自由の身です。でも主人を愛していて、「あなたの奴隷として留まりたいです。どこにも行きたくありません。私をととても大切にしてくださるので、あなたのもとに留まりたいです。」自分の意志で、召使いの奴隷として留まるのが、デュロスです。これは面白いことに、「詩篇」にメシア的な言及があります。

留まりたいと願う奴隷に何をするかというと、印をつけるため、耳をきりで刺し通すのです。耳に穴を開けた奴隷を見れば、彼らは自分の意志で契約奴隷となったことが分かりました。なぜかというと、彼らは主人を愛していて、その主人に一生を捧げることを誓ったからです。これが話の向かう先です。ペテロが『使徒』だと強調しないのは、なぜなら、『使徒』だと言ったら、すべてが変わってしまいます。

「ああ、私はふさわしくない。」でも、奴隷だと言うと、「あれ~どうしたの？」って感じですね。自分を低い者としています。硬貨の側面とハンドボールできるくらい低い者です。これについて、考える時間を差し上げます。(笑) 一言わば、すでに下座に座っています。あなたは奴隷で、もうどこにも行けないけれど、でも、上がるしかない。逆に、高い身分で権力あり、最も聖なる使徒、尊師。私は、大嫌いです。フアグ尊師と呼ばれると、「は？誰？尊師？」私は、牧師の肩書きすら、心地よくありません。なぜなら、牧師だと言うと、誰かとの会話の様相が一変するじゃないですか。なぜなら、牧師と信徒との間に、溝、断絶があるからです。聖職者は聖衣をまとい、そして信徒。だからペテロは、非常に注意深く、自分が奴隷、従う奴隷だと強調しています。パウロもそうしています。しかし、ペテロがここでまた、奴隷だと強調し、使徒だと強調しないのは、これらの肩書きは、自分自身の重要な役割を過度に強調してしまうからだと思います。興味深くはないですか？ なぜなら、私が福音書の中で知っているシモンは、いつも地位を争っていました。覚えていますか？ 彼らが会話をしていた時のことを思い出してください。

イエスは、「あなたがたは何を話してるの？」「私たちは霊的な話をしていますよ。」「いや、そうではないでしょう。誰が右に座るか、誰が左に座るか、王国で誰が一番偉くなるかの話でしょう。」イエスはこんな感じです。「OK。教えましょう。あなたがたの中で一番偉いのは、すべての人の僕となる人です。」

正反対でしたね。ペテロは常に、前面に出たがりました。

「恐れることはありませんよ～ペテロがここにいます～」彼は30年で大きく成長しました。今は、なんとというか、背景は使徒であることを強調しない、名乗らず、謙虚でさえあります。彼はあらゆる点で、当然尊敬されるべき使徒であり、イエス・キリストの弟子の一人でした。しかし、彼はそのように特定されることを望んでいません。彼はもうそんな風には思っていない。昔はそうだったのですけどね。彼はかつて、その肩書きに誇りを持っていました。「私が誰だか知っているか?」「いや、申し訳ないけど知らない。誰か知ってる人いる?」どうやら彼らは「誰か」だと勘違いしています。ペテロはその「誰か」になりたがっていましたが、今は「無名」です。彼は誰でもなく、何者でもありません。私は、誰でもなく、あなたがたの何者でもない。肩書きには注意しましょう。そうすれば、自動的に、彼らとの隔てを作ってしまう。さらにもう一步踏み込んで言います。どうか聞いてください。いいですか? 前にも話したと思いますが、これは大きな、大きな問題です。誰かにラベルや肩書きをつけるや否や、私たち 対 彼ら、という構図を生み出します。例を挙げましょう。「お～彼らはリベラルだ。」「お～、そっち側か。私は保守派だね。」今、何をしたか分かりますか? まず第一に、あなたはその人をイエス・キリストに導くあらゆる機会を失くしました。なぜなら、あなたは今、何よりもまず、自分自身をイエスの弟子ではなく、これに特定したからです。そう、こうなります。お、左派だ、右派だ、保守派だ、リベラルだ、共和党だ、民主党だ。そうなの? イエスは、そんなことは見ておられないと思います。いや、いや、いや、聞いてください。

「牧師さん、ちょっと苛つかせますよね。」それはよかった! イエスの御名において。ちょっと待ってください。じゃあ、彼らが民主党なら...ああ、あなたは共和党か! イエスは仰います。「救われているか、いないか?」最後に問題はそれだけです。あなたは救われておらず、イエスが必要なのか、イエス故に救われたのか、どちらかです。それがすべてです。

ところで、以前にも話したことがあります、私の心の声を聞いてください。これは私の人生を変えました、特にここ2、3年です。私が何を言っているのかわかると思っています。政治的問題で、この国は、どれだけ分断されていますか? これが原因で、世界がどれだけ分断されていますか? ラベルや肩書きをつけるからです。OK。叫ぶのは止めます。たぶん...約束はしませんけど。しかし、あなたが、彼らはああだ、私はこうだと言うと、これが私の尋ねる質問ですが、あなたがその人を非難し、悪魔のネズミと呼んでから、どうやってその人をイエスに導くのですか? 私は真剣です。どうやって.....彼らと主を分かち合うんですか? 彼らにこういうレッテルを貼り自分には肩書きをつけ名称を呼んでるだけなのです。自分を高く上げ、彼らを下に置いています。ダメダメ。こうあるべきです。(一直線/フラット) 唯一の違いは、救われているか、救われていないかだけです。神が私の人生に働いて下さった事で、私は、皆さんにオープンに言います。皆さんご存知だと思いますが、私はもう、画面で見ている誰かに腹を立てません。私を怒らせようとする人たちから、自分自身を解放せねばなりませんでした。

「彼らが何をしたか知っている?」いいえ!! 「あ、失礼ですが、、」ちょっと試してみます。心の中で、その分野であなたが最も軽蔑している人物を思い浮かべてみてください。たくさん過ぎるかもしれませんがね。あまり深く考えないでください。皆さんに考えてみてほしいんです。彼らが話すたびに、血が騒ぐ。こんな風に考えたことはありませんか? イエスは彼らを愛しておられます。イエスは彼らのために死なれました。えっと、聞いてください。主は、彼らよりあなたを愛してはおられません。あなたの方が愛されてると思っているのは知っています。いいえ、主は彼らをとっても愛しておられ、彼ら

のために死なれました。あなたは彼らを攻撃し、悪意を持ち、悪口を言い、くだらない投稿をしています。それで主が喜ばれると思いますか？ 突然、私は彼らに対して怒っていたのが、気の毒に思うようになりました。なぜなら、実感として、これは現実ですが、もうすぐ、もうまもなく、その日が来ます。私は心から信じていますよ。もし彼らがイエスを知らなければ、人類史上最も恐ろしい7年間に入ります。そしてその後、彼らは、キリストのいない永遠の地獄に、永遠に、永遠に、行くのです。それがすべてを変えます。私は彼らがかわいそうだと思います。彼らにはイエスが必要です。彼らにはイエスが必要なのです。私は怒れません。イエスは仰いませんでしたか？

「あなたの敵のため、あなたの悪口を言う者、あなたを不当に利用する者のために祈りなさい。」(マタイ 5:44 参照)

それが「何を」です。その「理由」が分かりますか？ 祈っている人に怒り続けられないからです。最初はそのかもしれない。実は、最初のうちは祈りが少し乱暴です。主よ、口から出すことすら難しいです。でも祈ろうとトライして、「しゅ、しゅ、祝福を彼らに！ しかし主よ、急ぐことはありませんよ。まずは少し苦しませてからで。」そして、時間が経つにつれて、神はあなたの心を変え始められます。今、あなたは彼らの魂に投資し、彼らのために祈っているのです。ですから、彼らに怒るのではなく、彼らのために祈るのです。そしてある日、彼らがキリストに人生を捧げたと聞いても、「ダメ～！」と驚かないでください。それでは、ヨナのように。ニネベ全土が悔い改めました。彼は神に、とても怒っていました。なぜなら彼は、このメッセージを伝えるため遣わされたのに、神から逃げようとしてしまった。皆さん、この話は知っているでしょ？ これは本当にあったことです。映画で見ると、まるでフィクションのようで、悲しいコメントですね。いいえ、本当にあったことです。ヨナは、鯨級の大きな魚に飲み込まれました。そして彼は、生々しさをお許しください。聖句の通り、ニネベの浜辺で吐き出されました。ヨナは、大魚の胃酸で真っ白でした。漂白され真っ白け。彼は真っ白になって、登場します。OK。聞いてください。ニネベ人々は、半人半魚の神を崇拝していました。そして、ここでこの大魚と人が登場します。ヨナは、希望のメッセージを言いません。

「さあ、手遅れになる前に救われなさい。」というメッセージではありません。彼はこう言います。

「40 日後にお前たちは焼き滅びる。私はあっちに行き、最前列でポップコーンを食べながら見てやる。待ちきれないね。」

彼らは、この大魚から出てきた人を見て、「これこそ神だ！」と思い、そして彼らは悔い改めました。そしてヨナは、「どういうこと？」彼は、彼らが救われたことを神に怒ります。「これじゃメチャクチャだ！」とにかく、脱線しましたね。

3 日目、1 節の 3 番目の部分です。これは超重要です。全部そうですけど、これは特にです。「義が転嫁される」再度、この一節だけでも、非常に詰まっています。ペテロがここで書いていることの重要性は、キリストの転嫁された義を直接知っていたという意味で、いくら強調してもし過ぎることはないでしょう。この『転嫁された』という単語、こだわってはいけません。会計用語です。あなたの口座に充当。転嫁された義は、あなたの口座に充当されます。特に義の場合は後ろの方ですよ。なぜなら、イザヤ書 64:6 の通り、私たち自身の義は不潔な衣ですから。ここで再度ペテロです。この 30 年後、神はこの力強い神の人の人生で、長年にわたって力強く、深い働きをされたと心に留める必要があります。福音書に出て来るペテロと、この書簡を書いているペテロは全く違うからです。福音書に出てくるペテロは、いつも自分の力のエネルギーで何でもやろうとしています。何しろ意志の強い漁師ですからね。当時の漁師は荒々

しく、今の漁師も荒々しいです。しかし、あの頃のあなたは、荒々しく、ラフで、タフで、その他もろもろ韻を踏んでいましたね。つまり、大変頑なです。そして、イエスが登場されます。

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」(マタイ 4:19)

そしてペテロは、この荒々しい.....想像してみてください。神から与えられた皆さんの想像力で、この荒々しい漁師を。彼らはとてもタフで強い意志があって、そう生きていました。

「俺は漁師だ。これをやっているんだ。俺は自分の力のエネルギーでやり遂げる。」そしてイエスがこう仰いました、「努力するよりも、信頼することが大切。」ここで私が言いたいのは、なぜ義が転嫁されることが重要なのかということです。私が自分の人生を、クリスチャンとしての人生を、このように生きようとしているなら、「はい主よ、私は失敗し台無しにしました。もっと頑張って、自分を高めようと思えます。必ずやり遂げるので、見ていてください。」そして、神に誓います。「神よ、分かりました。もう二度とやりません。」天の神が、こう仰っておられる姿が目に見えます。「またやるでしょうね。。。」「あ、もっと頑張ります。」「もっと頑張るのですか？」もっと頑張る、の意味知っていますか？ それは肉です。それは、肉のエネルギーです。あなたは、肉のエネルギーで義の人生を送ろうとしています。絶対あり得ません。不可能です。絶対起り得ないのですそれは、私の内住する聖霊の御力によらなければなりません。それこそが、私が聖なる人生を歩む唯一の方法です。私の力では無理です。努力するのではなく、信頼するのです。ペテロにとって、それが一番難しいことですよね。自分が誰か知っています。私は、誰も見ないし、指さしませんよ。こう指さしたりすると、「私を指差している～！！」と言われるので、気をつけます。それなら、こうまんべんなくすればどうでしょう？ あなたは自分が何者か分かっています。ペテロよ、シモン・ペテロです。これはすべてに反しています。つまり、あなたの罪の性質、肉はこれに苛立ちを覚えます。なぜなら、あなたは結局のところ、自分でやりたいから。へ～本当ですか？ いいえ、私は自分でやり遂げられません。神が私をお造りになりました。キリストに似た者となるように。では「努力する」領域から「信頼する」領域に入るためには、何が必要でしょうか。一言で言えば、「降伏」です。降伏する。ペテロには難しいことです。OK。私は自分自身を言います。私が犠牲になりましょう。私はペテロに共感します。私は、これまでの人生、クリスチャンとしての人生、こんにちもそうです。告白します。これは私にとって本当に苦しいことです。なぜなら、私はそう配線されています。ただそこに入って、それを実現するため、できる限りの努力をする。私はただ主が仰ることを想像します。

「OK。わたしはあなたに無理強いしません。あなたが自分の力で失敗し、挫折する”時”に、わたしはここにいます。いつになったら、自分で努力するのではなく、わたしを信じてくれるのですか？ なぜなら、あなたは必ず失敗し、必ず落ちこみますから。」

そう、こういう仕組みです。私自身の義ではなく、義にかなった生き方に気づくと、木曜日の夜の聖餐式でこの話をしました。これは、あなたのクリスチャン人生を本当に変えることができる、非常に強力な原理です。そう、私たちがするクリスチャン生活はこうです。私たちは、イエスと功績に基づく関係で生きています。それはどのようなものでしょう？ 今日はちょっと嫌なことがあって、本当に失敗してしまいました。誰にも内緒ですが。そして、罪悪感にさいなまれ、敵はすぐそこにおいて、あなたに非難を浴びせてきます。

「なあ、この後、どうしたらいいか分からないね。もう二度としないって、主にも言ったんだろ？ 私だったら、しばらく身を潜めるね。教会にも行かないよ。てか、隣に座る人が知ったら...」隣の人を見ないでください。「しかし、あなたがしたことを彼らが知ったら。あなたは自分をクリスチャンと呼ぶし。」

「分かっています。分かっている。もっと頑張らないと。」違います。私たちは、失敗したから罪を犯したと考えるのです。これは神が「OK。これで償いなさい。」と仰られるような不義です。あなたは不安な気持ちで待っている。しかし、そうなりません。なぜか？ 恵みです。もう一方の靴が落ちる/不安で待つのではなく、そのもう一方の靴は、あの十字架上でイエスが、完全に支払ってくださったからです。

「今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」(ローマ 8:1)

罪悪感ありません。そう、サタンは私たちにそのことを知られたくなく、そのような生き方をさせたくありません。なぜなら、サタンは私たちが罪悪感と非難の重圧にいる限り、私たちを捕らえられます。私たちは、そんな状態で長く過ごしてはなりません。全て支払われた十字架へ早く行くのです。私はこのことを思い出す必要があり、ペテロはこのことを彼らに思い出させ、彼はこのことを語る権利があります。なぜなら、彼はこのように、主と功績に基づく関係で生きていたからです。では、カエサレア・ピリピに戻りましょう。一緒にイスラエルに行ったことがある人はわかると思いますが、非常に悪魔的な場所で、「パンの神」とは「パニック」という言葉の由来です。それはよみの門です。最も邪悪な場所です。イエスは弟子たちをそこに連れて行き、そこで質問をされました。

「わたしをだれだと言いますか。」 (マタイ 16:15)

もちろんペテロだけが、正しく答えます。

「あなたは生ける神の子キリストです。」 (マタイ 16:16)

で、イエスはペテロに言われました。「バルヨナ・シモン、正しい答えです。」

そして、主は仰います。(16:18)

「わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。」

カエサレア・ピリピのこの場所は、地獄の門、よみの門と呼ばれていました。それが教会に勝つことはありません。ペテロはこんな感じです。「おいみんな、聞いたか？ はははは。あなた方みんな、私が誰だと言うのかい〜？ 私に任せてください。正しい答えは私にあります。私ペテロに。」

では、(マタイ 16:18) からさらに数節先へ進んでください。ペテロは今、自分のことで満載で「どんなもんだい！」と考えています。イエスは、十字架にかかれることを話し始められました。

ペテロの反応は？「そんなことは絶対させません。」ゆるい言い換えですが、イエスはペテロに何と仰られたでしょう？

「下がれ、サタン。」(マタイ 16:23)

待って、何？ 私はここでむち打ち症になりました。

「シモン・バルヨナ、血肉の人間には分かりませんが聖霊が明らかにされました。」(マタイ 16:17 参照)

そして今度は、「下がれ、サタン。」

そこからどういう経緯でそうなったの？ 彼は、これを語れます。自分の力のエネルギーではない。自分の義ではない。それは、キリストの転嫁された義です。

4つ目、1節の4番目です。繰り返しますが、初見では見逃しがちです。これも、この1節だけを取り上げている理由です。しかし、ペテロは「救い主」と書く前に「神」と書いていることに注目ください。なぜか？ ここでまた「なぜ？」の質問です。なぜ？ なぜなら、よく考えてみてください。イエスはまず、私たちの救い主であられる前に、私たちの神であられねばなりません。私が本当に落ち込んでいるとき、落胆しているときに、この言葉はどのように適用されるのか？ よろしい。

答え：あなたは、神と個人的な関係があります。

あなたは、イエス・キリストに救われた関係がありますが、あなたは神を個人的に知っています。それを考えてみてください。天と地と海とその中の全てを創造された神は、ええ、あなたのことも知っておられます。名前を挙げましょうか？

「ええ、私は誰それを知っています。」「わお～本当に？わお！」「私には、高い地位の知り合いがいます。」「おお、そうなのですか？ そんなの何でもありませんよ。私は、最も高いところにおられる方を知っています。どうですか？ 個人的に知り合いです。」

私たちって言いますよね。「私は電話番号を知ってるんだぞ。いつでも電話できるし、それだけの知り合いだからね。」「おお、そうなのですか？ そんなの何でもありませんね。私は、直通電話です。天と地と海とその中の全てを創造された神、宇宙の神、最も高い所におられる神との。そして、私はいつでも、どんなことでも神に電話することができ、留守電になることもありません。必ず取ってくださいます。それどころか、神は、呼び出し音を待たれません。私が電話することを既に知っておられるので、私が電話すると必ず答えてくださいます。私は落ち込むと、神に起き上がらせて貰いたいんです。」

でも私たちは、そうしませんよね？ 私たちは、神以外の誰かに電話します。主が、リストの最後です。

「なんてこったい！私は誰々に電話した方がいい。」

神はこうされています。「わたしに電話しなさい。実際、あなたが彼らに電話したら、もっと悪くなると保証します。」

でも私たちは、彼らか彼か彼女に電話し、主には電話しません。私たちが主を呼び求めると、主は答えてくださるのに。しかも、呼び出し音が1回も鳴らずに。主は私たちが電話することを既に知っておられます。そして、電話をかけると速攻で「ハーイ、JD」「お、まだ鳴ってませんよ。」「分かっています。」「私が電話するのを知ってたのですか？」「わたしはすべてを知っています。わたしは神だよ。ちなみに、あなたが生まれる前から電話してくることは知っていましたが、あなたが理解するのは、無理な話です。よく電話してくれましたね。何が必要ですか？」「あなたが必要です、イエス様。」「わたしはここにいます。」「なんだか落胆しているのです、主よ。本当に苦労しているんです。」「分かっています。知っています。」「主よ、私は本当に落ち込んでいます。」「わかっています。わたしがあなたを起き上がらせます。あなたがわたしに電話したのだから、わたしがあなたを起き上がらせます。」そういう意味です。それが「何を」の裏にある「理由」です。ここでペテロが、今一度、彼が30数年若かった頃へ巻き戻してみましよう。彼は個人的に、親密に、人となられた神を知っていました。彼は主と共に歩み、彼は主と話をし、彼は主と共に笑いました。彼は主と共に泣き、彼は主と共に祈りました。また、祈るべき時に眠ってしまったこともありました。ペテロは神を知っていました。あなたの問題はなんでしたっけ？ 何をそんなに心配してるのですか？ 最も高いところにおられる神が、あなたの神です。あなたは主を知っています。あなたは主と個人的な関係があります。あなたは主に無制限にアクセスできます。何ということでしょう！ あなたはいつでも主に電話が出来ます。

最後の1つ、「イエスへの信仰は尊い」ここでも初見では、「OK. 尊い。」という感じです。しかし、そうではなく、ペテロがこのように書いているのには理由があります。実は、ペテロは「尊い」という言葉が好きようで、何度も使っていることから分かります。第一の手紙の中で、キリストの血を尊いと語ります。「キリストの、尊い血」(I ペテロ 1:19)

そして2章(6節)では、要石であるイエスを、「尊い要石、尊い」と語ります。そして、この第二の手

紙の1節で、「私たちの信仰を尊い」と語るのは、この尊い信仰こそが私たちのものなのです。そして、4節まで来たら、多分来週、主の御心なら、約束はしませんが、分かります。4節で彼は「神の約束を尊い」と語ります。「尊い」という言葉が好きという印象を受けますよね？理由を知りたいですか？ええ、なぜか？という質問、原文で、この言葉「尊い」に意味があるからです。皆さん、神から与えられた理性、神から与えられた知性を使ってください。神はあなたに深い知性を与えておられます。その神から与えられた知性を使って欲しいのです。「尊い」という言葉には、計り知れない、かけがえのない価値があるという意味が込められています。その価値は、誰の理解も遥か超えて。その言葉にはそういう意味があります。そこで、その理解を、ペテロがこの言葉を繰り返し使う文脈に重ね合わせてみましょう。それはイエスを表しているのでしょうか？計り知れない、理解し難い価値。尊い要石。今日の学びの文脈では、私たちの信仰は計り知れません。以前にも質問したことがあります。もう一度聞くのが適切だと思います。質問はこれです。「あなたが持っている最も価値のあるものは何ですか？」もし、あなたがすぐに物質的な所有物を思い浮かべるなら、私が持っている最も価値のあるもの、家でも何でも、投資でも。違います。それらは実は、聖書から、実際は無価値、価値がない、無価値だと主張できます。クリスチャンとして最も価値のある財産は、「永遠のいのち」です。だから皆さんここにいるんです。今日ここに座っているか、オンラインで見ているあなた、職を失ったり、全てを失っても、あなたは、自分の持っている最も大切な財産を失ってはいません。ええ、あなたは失ったものために落ち込んでいます。仕事を失い、収入を失い、貯金を失い、投資を失い。大切な人を亡くされたかもしれません。あなたは最も大切な財産を失ってはいません。これで納得してもらえましたか？ちょうど尊い姉妹と話をしていましたので、尊い姉妹です。次に使うとき、もう二度とその言葉を同じように使うことはないでしょう？私もそうです。それは良いことです。しかし、尊い姉妹が、40歳そこそこの息子さんが、癌で、主のもとに帰ると話していて、私は、ああ、何と痛みを感じるのか、彼女と分かち合っていたのですが、使徒パウロが、テサロニケの人々への手紙で、「私たちはまだ悲しんでいる」と言います。悲しむのはとても健康的なことです。しかし、私たちが悲しむとき、希望のない者のように悲しむ事はありません。私たちに祝福された希望があるからです。それは最も尊い財産です。栄光の希望、永遠のいのちという希望、もうすぐ、もうまもなく、あのラッパが鳴る希望ですよ。

すると、キリストにある死者が先によみがえり、そして、生きて残っている私たちは、空中で彼らや主に会うために引き上げられ、永遠に主とともにいるのです。(I テサロニケ 4:16-17)

そして、おお、私たちは栄光の永遠の体も手に入れます。それだけでもね。それだけでもね。待ちきれません。それは、私にとって最も価値ある尊い財産です。頭を上げてください。頭を上げてください。弱った膝を力づけてください。知っていますか？受け継ぐ財産のことです。受け継ぐ財産があるんですよ？自分の受け継ぐ財産が何か知っていますか？信託財産の話をするかもしれませんね。皆さん、、、それって、私は言葉を失うほどです。それ自体が奇跡ですけど、言葉もありません。言葉では言い表せません。理解を超えています。そして、それが私たちを立ち直らせるのではないのでしょうか？地上のことばかり考えていると、天の益になりません。反対にした方が良いのでは？皆さんもよく耳にする言葉ですが、有名な、いや、悪名高いマーク・トウェインの言葉です。

「クリスチャンは、天を思えばばかりいるから地上の益にはならない。」逆ですよ。天を思えば思うほど、地で益になる。私の心が主に留まっているから。また、イザヤ書(26:3)、

「志の堅固な（主に目を向ける）者を、あなたは全き（尊い）平安のうちに守られます。」

あなたの生活で、その状況から目を離してください。見るのをやめてください。長く見れば見るほど、大きくなりますよね？ そこから目を離し、主に目を向けてください。それを態度の修正と呼ぶのですか？ 先週、この話をしました？ 牧師が、前の週の説教を覚えていないのはかなりまずいです。あなたがそれを見れば見るほど、それはどんどん大きくなり、あなたが神を見なければ見ないほど、神はどんどん小さくなる。そして逆に、それを見ず、主を見れば見るほど、主は大きくなり、それは小さくなります。なぜなら、主は神ですあなたは最も価値のある財産を所有しているのです。永遠の命です。一時的な人生から目を離しなさい、なぜなら、一時的な人生を見続けていると、落ち込みます。長くは続きません。落ち込みます。落ち込むのも無理はありません。さて、最後にこのダサイ、馬鹿げた諺で締めくくります。私は馬鹿なことが好きです。私には馬鹿げる賜物があります。しかし、以前にも聞いたことがありますよね。ここで注意喚起です。

言い習わしで、こんな感じです。「人に目を向けると、悩む。自分自身に目を向けると、落ち込む。でもイエスに目を向けると、祝福される。」

本当にその通りです。馬鹿げていますが、そうでしょう？「内面を見なさい！」いやいや、違います。内面を見ないでください。そんなことしたら落ち込みます。かなり醜いからです。

「OK。では彼らに目を向けます。」いや、それは止めてください。さらに悪いです。いいえ、主に目を向けてください。主に目を向けてください。

お立ちください。カポノ、上がってきてください。祈りで締めくくります。

主よ、本当にありがとうございます。お～、主よ、ここには多くのものがあります。再度、わずかなパンと魚ですが、あなただけが御出来になる通り増やし、砕き、祝福され（この順序です）、そしてそれで私たちが満腹に養われます。ですから主よ、今すぐそうしてくださいませんか？ここから先は、聖霊に委ねます。もう一度、特に苦しんでいる人、傷ついている人、落ち込んでいる人、落胆している人、主よ、彼らを起こし上げてください。思い出させてください。思い出させてください。主よ、この注意喚起に感謝します。ペテロに感謝です。私たちはペテロを愛しています。栄光の中でペテロに会えるのが待ちきれません。主よ、この2通目の手紙を彼に書くよう導いてくださったことに感謝します。この手紙の先に何があるのか、とてもワクワクします。イエスの御名において、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7